

第 4 学年国語科学習指導案

児童 4年2組 男 12名 女 19名 計 31名
指導者 三浦 智子

相手の考えを受け止めて聞き、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く力を育てる学習活動の工夫

1 単元名 読んで想像したことを伝えよう (学習材名「ごんぎつね」 光村4年下 他)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「白いぼうし」で、色やにおいなど、場面の情景を想像させる言葉を手がかりにしたり、会話や行動から登場人物の人柄について想像したりしながら読む学習を行ってきた。「一つの花」では、題名や作品のかぎになる言葉に着目したり、場面を対比させたりしながら登場人物の様子や気持ちを想像して読む学習を行ってきた。これらの学習を通して、児童は、登場人物や場面の様子を叙述に気を付けて読むことができるようになってきている。しかし、叙述から離れて想像している児童も見られる。

読むことの学習の中で互いの考えを聞き合う際には、意欲的に自分の考えを話したり、相手の考えを聞こうとしたりしている。しかし、相手の考えや理由に気を付け、自分のと比べながら詳しく聞くことは十分であるとはいえない。

このような児童に、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだり、互いの考えや理由に気を付け、比べながら聞いたりする力をつけていくことが大切であると考えられる。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」である。この力を育てていくためには、「各場面の様子に気を付けながら場面と場面とを関係付けて読むこと」「登場人物の性格や気持ちの変化を、地の文や行動・会話などの叙述を基に想像して読むこと」「相手の考えとの共通点や相違点を比べながら聞き合うこと」などの力を必要とする。本単元では、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を想像しながら読み、互いの考えを聞き合う活動においては、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと」が指導の中心である。

このような力を育てるために、中心学習材として「ごんぎつね」を用いる。「ごんぎつね」は、いたずら好きでひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と母親の死によってひとりぼっちになってしまった兵十との心の交流の美しさと悲しさが描かれた物語である。作品のクライマックス場面で、心の交流への切ない願いやそれが果たされない悲しみが描かれている。美しい情景描写を背景に、心のすれ違いを描いた「ごんぎつね」は、夢中になって読むことができる、魅力に富んだ作品である。児童は、作品に引き込まれながら、ごんの心情を深く考えようとするであろう。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、新美南吉の作品を紹介し、「新美南吉さんの作品の読書会を開こう」という単元のゴールを明確にする。そして、読書会に向けての並行読書の進め方も確認する。

単元のふかめる段階では、新美南吉作品の中の「ごんぎつね」について、場面毎の「ごん」の気持ちを叙述を基に想像し、学習シートに書かせていく。その際、場面毎の気持ちを比較することで、「ごん」の気持ちの変化をとらえさせたい。次に、最後の場面には書かれていないごんの気持ちについて、叙述を基に想像し、対話で交流させたい。さらに、「ごんぎつね」のお話全体を通して、「ごん」の気持ちがどのように変化したのかを、学習シートをつなぐことでとらえさせたい。

単元のまとめる段階では、一つ選んだ新美南吉作品の中の「主人公の気持ちの変化」について考え交流させる。そのことを基に、主人公の気持ちの変化をテーマにした、新美南吉作品の読書会を開く。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・場面や登場人物の様子を想像しながら，新美南吉の本を進んで読もうとする。
- ・相手の考えを受け止め，自分と比べながら聞こうとする。

(2) 読むこと

- ・場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の気持ちの変化を，叙述を基に想像して読むことができる。
- ・文章を読んで考えたことを発表しあい，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

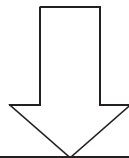
- ・言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①相手の考えを受け止め，自分と比べながら聞こうとしている。 ②新美南吉の本を進んで読もうとしている。	①場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の気持ちの変化を，叙述を基に想像して読んでいる。 ②文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。	①言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

5 学習指導計画（18時間扱い）

〔関連する前の単元〕
「一つの花」
○登場人物や場面の様子を，作品の中の大事な言葉に気を付けて想像しながら読む。



〔関連する対話の指導〕
考えや理由の共通点や相違点を聞き分けたり，分からないことを聞き返したりしながら，対話を進める。

段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○新美南吉さんの作品から想像したことを伝える計画を立てよう。	・新美南吉の作品を知る。 (1) ・新美南吉作品の読書会を開くという単元のゴールに向けて，学習計画を立てる。 (1)	アー② 新美南吉の本を進んで読もうとしている。
ふかめる	○場面や登場人物の気持ちを想像しながら，「ごんぎつね」を読もう。 ○「ごんぎつね」のごんの気持ちを想像し，変化について考えよう。 ○新美南吉さんの他の作品の登場人物の気持ちの変化について考えよう。	・登場人物の行動や会話から，気持ちの変化を想像して読む。 (7) ・最後の場面のごんの気持ちについて作品の中の叙述を基に想像し，ごんの気持ちの変化について考える。 (3) ・新美南吉の他作品を読み，作品の登場人物の気持ちの変化を想像して，聞き合う。 (3)	イー① 登場人物の気持ちの変化について，叙述を基に想像して読んでいる。 アー① 相手の考えを受け止め，自分と比べながら聞こうとしている。 イー② 文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。
まとめる	○新美南吉さんの作品の読書会を開こう。	・新美南吉の作品について，登場人物の気持ちの変化をテーマに読書会を開く。 (3)	ウー① 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

6 本時の指導

(1) ねらい

- 相手の考えを受け止めながら、聞き合おうとする。

[対話の情意的要素]

- ごんの気持ちを聞き合うことを通し、一人一人の感じ方について違いのあることに気づき、自分の考えをまとめることができる。

[読むこと的能力]

(2) 展開

段階	学 習 活 動 (○ 主発問)	時間 (分)	◇ 学 習 内 容	教師の関わり ☆評価 (方法)
みとおす	1 学習課題を確認する。 ごんの気持ちを聞き合い、気持ちの変化について考えよう。	5	・学習のめあてを確かめる。	・ごんの気持ちについて想像したことを聞き合い、その変化を考える学習であることを示す。
	2 学習の見通しを持つ。		・対話の進め方を確かめる。	・対話の進め方を提示し、手順が分かるようにする。
ふかめる	3 学習課題を解決する。 (1) 対話をする。 ○自分の考えと比べながら聞き合いましょう。	8	◇叙述をもとに、自分の考えを述べたり、質問したりすること。 私は、ごんの気持ちは、「うれしい」だと思います。わけは、「～引き合わないなあ。」とあるので、ごんは兵十にわかってほしかったと思います。だから・・・	・根拠となる叙述を互いに確かめながら聞き合うことで、相手の考えを理解できるようにする。 ☆相手の考えを受け止め、自分と比べながら進んで聞こうとしているか。(観察, 学習シート)
	(2) 2回目の対話をする。	8		
	(3) 全体で聞き合う。	10	◇自分の考えと、友達の考えを比べて聞くこと。	☆ごんの気持ちの変化を、聞き合ったことを基にまとめているか。(観察, 学習シート)
	(4) 課題に対する自分の考えを書く。 ○聞き合って考えたことをふり返りながら、ごんはどのように変わったか書きまとめましょう。	5	・学習課題についての自分の考えを記述する。	[努力を要する 児童への支援] これまでのごんの気持ちを学習シートでふり返らせ、板書と比較して本時との違いをとらえさせる。
	(5) 発表する。	4	◇ごんの気持ちの変化を、発表を聞いて確かめること。	
まとめる	4 学習をふり返る (1) 自己評価をし、学習感想を書く。 (2) 振り返りを交流する。	5	・想像したことを対話で聞き合い、自分の考えをまとめたふり返りをする。	・想像したことを聞き合うことを通して、相手の考えを詳しく知ったり、多様な考えに触れたりでき、自分の考えに生かされたことを価値付ける。
	5 次時の学習内容を確認する。		・ごんの気持ちの変化をまとめ、新美南吉作品の読書会の準備をする。	